

広島市公文書館 事業概要

平成 26 年 度 版

広島市公文書館

目 次

I 概 要

1	公文書館の歩み	1
2	組織及び事務分掌	1
3	施設の概要	2
4	予算及び決算	2
5	公文書館運営委員会	2
6	啓発・普及	2
7	条例・規則等	3
8	主要年表	4

II 利用状況

1	行政資料その他歴史資料	5
2	公文書	6
3	広島市刊行物の販売	6

III 情報公開制度・個人情報保護制度

1	情報公開制度	7
2	個人情報保護制度	7
3	情報公開・個人情報保護審査会	8

IV 保存文書の引継ぎ・保存・廃棄

1	保存文書の引継ぎ	9
2	保存文書の整理	9
3	保存文書の廃棄	9
4	マイクロフィルムによる保存	9

V	行政資料等の収集・管理	
1	行政資料の登録・目録作成	10
2	図書等の登録・目録作成	10
VI	歴史資料の収集・整理・保存	
1	歴史資料の種類	11
2	収蔵資料数	11
3	主要所蔵資料	11
4	「役場文書目録」の作成	12
5	「歴史資料目録」の作成	13
6	マイクロフィルム	13
VII	公文書館「紀要」の刊行	14
VIII	市史の編さん	
1	市史編さん事業の概要	15
2	新たな市史編さん事業	16
IX	展 示	
1	平成26年度展示の実施状況	17
2	過去の特別展示の実施状況	17
X	平成26年度の主なできごと	18

I 概 要

1 公文書館の歩み

広島市は、昭和 20 年 8 月 6 日の原子爆弾被爆によって、公文書をはじめ多くの歴史資料を焼失した。

一方で、政令指定都市移行に向けて、昭和 46 年から昭和 50 年にかけて周辺 13 か町村との広域合併を進めたが、これらの町村役場には、焼失した旧広島市域の歴史をうかがわせる近世以来、とりわけ明治以降の町村制期の貴重な公文書が多数保管されていた。

歴史資料の散逸・焼失は、こうした大きな行政機構の変動の際に特に起こりやすいことから、それを防ぎ、さらに、合併 9 か町の町史（誌）及び当時既に着手していた戦後史「広島新史」の編さん過程で収集した資料を体系的に整理・保存し、恒常的な活用を図る体制を整える必要があった。

そこで、広島市公文書館条例（昭和 52 年 3 月 31 日公布）により、同年 4 月 1 日、公の施設として広島市公文書館を設置した。当時、公文書館の名を冠する施設を有していたのは国、東京都のみであり、文書館その他の類似施設も全国的にみても多くはなかった。

開館当初は資料を収蔵する書庫もなかったが、翌昭和 53 年 3 月市立中央図書館の地下書庫を借用・改修して書庫・作業室兼閲覧室を設けた。その後、市史編さん室と一体的な組織として、収集した史資料類の保存・活用を図るための専門施設として業務の充実に努めてきた。

開設以来 10 年目を迎えた昭和 61 年に入り、同年 6 月から開始した公文書公開制度の統一窓口としての役割を加えるため、同年 1 月に市役所西庁舎に移転した。同年 4 月には市史編さん室の廃止に伴いその業務を引き継ぎ、組織も 2 係制として充実を図り現在に至っている（p4「I の 8 主要年表」参照）。

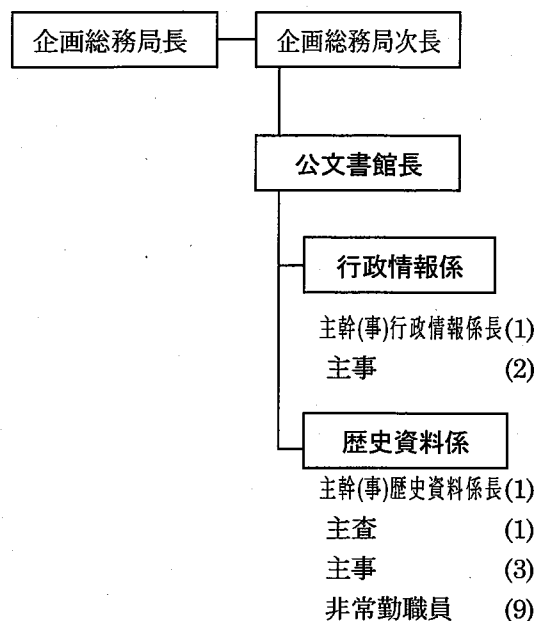
さらに、平成 8 年 4 月から市長の資産等の公開窓口や同年 10 月から個人情報保護条例に基づく個人情報の開示・訂正請求の窓口としての役割も果たしてきた。平成 13 年度からは公文書公開制度を情報公開制度に改め、より一層の情報公開に努めている。

平成 16 年 6 月、市街地再開発事業により建設された大手町平和ビルに、事務室・閲覧室・資料室（書庫）等を備えた新館が完成し、同年 7 月に移転、分散して保管していた資料の大部分を館内で集中して管理し提供できる体制が整った。

2 組織及び事務分掌

(1) 組織(企画総務局の出先機関)

(平成 27 年 4 月 1 日現在)



(2) 事務分掌

行政情報係

- ① 情報公開制度の総括・個人情報保護制度の総括
- ② 市長の資産等の公開に関する事務
- ③ 館の庶務（予算・決算・人事・給与等）

歴史資料係

- ① 歴史資料の収集・整理・保存・利用相談・調査・研究・普及
- ② 市刊行物の販売
- ③ 市史の編さん
- ④ 保存文書の引継ぎ・保存・廃棄
- ⑤ マイクロフィルムの管理
- ⑥ 他部局の編さん事業への協力
- ⑦ 行政資料等の収集・管理・利用
- ⑧ 館の庶務（物品の購入・管理）

3 施設の概要

(平成 27 年 4 月 1 日現在)

(1) 所在地

〒730-0051

広島市中区大手町四丁目 1 番 1 号

大手町平和ビル 6 階～8 階

(2) 面積

全体面積 2,524 m²

(北庁舎地下書庫 302 m²を含む)

【部門別内訳】

管理部門 285 m² (事務室 163 m²)

利用部門 378 m²

(閲覧室 268 m²)

(開示室 15 m²)

(研修・会議室 43 m²)

(展示ロビー 52 m²)

作業部門 139 m²

保存部門 1,321 m²

(6 階資料室 618 m²)

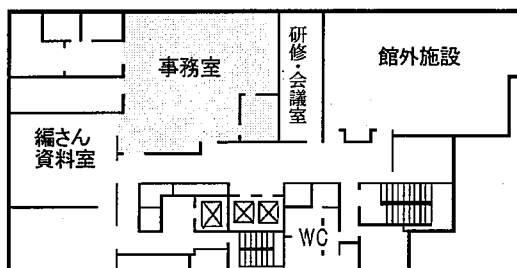
(7 階資料室他 345 m²)

(フィルム保管室 56 m²)

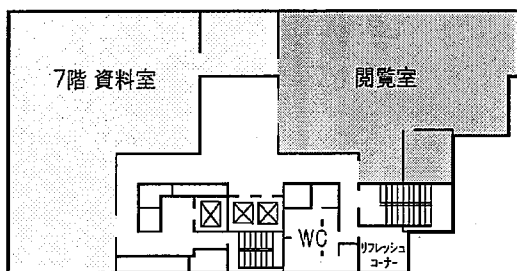
(北庁舎地下書庫 302 m²)

その他 401 m²

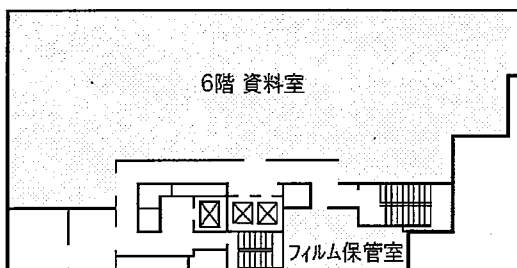
8 階



7階



6階



4 予算及び決算

平成 26 年度の事業別の歳出当初予算及び決算状況は、次表のとおりである。

(単位: 千円)

区 分	予算額(当初)	決算額
公文書館管理運営	29,610	33,588
情報公開制度・個人情報保護制度の運用	438	332
保存文書の管理事務	4,900	4,550
被爆 70 年史編修発行	21,945	21,944
被爆 70 年史関連事業	3,375	2,265
公文書館紀要の編修発行	354	275
公文書館の施設整備	8,900	15,796
公文書館の維持補修	9,997	5,199
合 計	79,519	83,989

※職員給与、報酬及び賃金を除く

5 公文書館運営委員会

広島市附属機関設置条例に基づき、公文書館の運営に関する重要な事項を調査審議するため、広島市公文書館運営委員会を設けている。運営委員会は委員 6 人以内をもって組織し、任期は 3 年で現委員は平成 27 年 12 月 9 日までの任期となっている。

《公文書館運営委員会委員名簿》

(平成 27 年 4 月 1 日現在 50 音順)

氏 名	役 職 名
安藤 福平	広島県立文書館元副館長
宇吹 暁	元広島女学院大学教授
勝部 真人	広島大学大学院文学研究科教授
杉本 俊多	広島大学名誉教授
曾根 幹子	広島市立大学国際学部教授
西本 雅実	中国新聞社編集委員

6 啓発・普及

(1) パンフレットの発行

(2) 市政出前講座

市民の皆さんの求めに応じ、地域に出向いて、情報公開制度・個人情報保護制度及び広島市の歴史を説明している。

(3) 職員研修

各区等の担当者の研修会等において、情報公開制度・個人情報保護制度の概要について研修を行うほか、研修センター等の求めに応じ、情報公開・個人情報保護や広島市の歴史及び戦後復興などの研修講師としても職員を派遣している。

7 条例・規則等

公文書館の管理運営に係る主要な規程は次のとおりである。

- 公文書館法
 - ・ 広島市公文書館条例
 - ・ 広島市公文書館条例施行規則
- 広島市附属機関設置条例
 - ・ 広島市公文書館運営委員会規則
- 広島市情報公開条例
 - ・ 広島市情報公開条例施行規則
- 広島市個人情報保護条例
 - ・ 広島市個人情報保護条例施行規則
- 広島市情報公開・個人情報保護審査会条例
- 政治倫理の確立のための広島市長の資産等の公開に関する条例
 - ・ 政治倫理の確立のための広島市長の資産等の公開に関する条例施行規則
 - ・ 政治倫理の確立のための広島市長の資産等の公開に関する実施要領
- 広島市文書取扱規程
- 広島市行政資料管理規程

8 主要年表

- 46.7 【国立公文書館開館】
- 49.4 総務局総務課内に市史編さん担当主幹配置
- 50.7 総務局に市史編さん室を設置
広島市史編修委員会を設置(附属機関設置条例の改正)
「広島新史」編さん事業に着手
- 51.9 合併町史の刊行開始(「可部町史」)
- 51.10 今堀誠二氏(広島市史編修委員会専門部会代表)が市長に対し「広島市公文書館設立要望書」を提出
- 52.4 広島市公文書館を設置
広島市公文書館運営委員会を設置
- 53.3 広島市公文書館「紀要」第1号を刊行
広島市公文書館運営委員会第1回会議を開催
- 54.3 所蔵資料目録第1号「戸坂村役場文書目録」を刊行
- 55.9 第1回特別展「ひろしま今昔」を開催
- 56.4 「広島新史」の刊行開始(資料編Ⅰ)
全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(全史料協)に加入
- 58.4 新文書管理システムの開始
- 58.9 事務改善委員会「行政資料センター(仮称)基本構想[暫定施設分]」を策定(公文書公開制度の開始に併せた西庁舎における情報の総合的・多機能施設の整備構想)
- 59.7 行政資料登録制度の開始(行政管理課所9r管)
- 61.1 西庁舎に移転
- 61.3 公文書公開条例公布
「広島新史」編さん事業終了
市史編さん室廃止
- 61.4 組織改正により2係制となり、行政管理課から保存文書の引継ぎ・保存・廃棄事務・行政資料の管理事務移管(行政資料室規程を行政資料管理規程に題名改正)
廃止された市史編さん室の業務を移管
- 61.6 公文書公開制度を開始
広島市公文書公開審査会を設置
- 62.3 「公文書館だより」第1号を発行
- 62.7 広島市公文書公開審査会第1回会議を開催
- 62.12 【公文書館法公布(63年6月施行)】
- 元.4 「図説広島市史」を刊行
- 3.2 「戸坂村史」「中山村史」を刊行
- 4.1 「井口村史」を刊行
- 4.4 「被爆50年記念史編さん」事業開始
- 5.4 個人情報保護制度を要綱で開始
- 8.3 個人情報保護条例公布(4月一部施行、10月全部施行)
「被爆50周年 図説戦後広島市史 街と暮らしの50年」刊行
- 11.5 【行政機関の保有する情報の公開に関する法律公布(13年4月施行)】
- 11.6 【国立公文書館法公布(12年10月施行)】
- 13.3 公文書公開条例を全部改正し、情報公開条例を公布。(4月施行)
- 13.7 「被爆50周年 図説戦後広島市史 街と暮らしの50年」再版
- 13.11 広島県市町村公文書等保存活用連絡協議会(広文協)発足・加入
- 14.2 市街地再開発事業による西庁舎取り壊しに伴い仮移転
- 15.5 【個人情報の保護に関する法律等関連5法の公布(一部施行。完全施行は平成17年4月1日)】
- 16.3 個人情報保護条例を全部改正、交付(4月一部施行、6月全部施行)
- 16.7 大手町平和ビルの竣工に伴い移転
- 17.6 被爆60周年記念事業「描かれたHIROSHIMA展」開催
- 19.9 公文書館開館30年特別展「ひろしま・歴史への誘い」開催
情報公開条例を一部改正
- 20.4 (開示請求者の範囲の拡充) 行政情報検索業務システム本格稼動
- 21.7 【公文書等の管理に関する法律公布】
- 21.8 市制施行120周年展「ひろしま・人と街の物語」開催
- 24.6 「紀要」第25号を発行(発行再開)
- 24.7 電子決裁等の文書管理システムの開始
- 26.1 画像データや目録情報のデジタルアーカイブ・システムを導入し、データベースの構築を開始
- 26.4 被爆70周年記念事業として「被爆70年史」の編さんに着手
情報公開条例及び個人情報保護条例を一部改正
情報公開・個人情報保護審査会条例を施行(広島市情報公開・個人情報保護審査会を設置)

Ⅱ 利用状況

1 行政資料その他歴史資料

公文書館では、広島市公文書館条例に基づき、閲覧室において行政資料その他歴史資料を市民・職員の利用に供している。

(1) 利用形態

ア 閲覧

閲覧室内において、自由に閲覧できる。

(無料)

イ 複写手数料

白黒複写 10 円／1 枚

カラー複写 100 円／1 枚

CD-R 100 円／1 枚

DVD-R 130 円／1 枚

ウ 利用相談

資料検索等の利用相談を閲覧カウンターで行っている。

エ 貸出・掲載等

原則として貸出は行っていないが、公共団体等による学術の振興、文化の普及又は行政事務の適切な執行のために利用する場合に限って貸出を行っている。26 年度は下記のとおり出版物への掲載や展示会での使用等に協力した

・出版物への掲載、テレビでの放送等

171 件・1057 点

・展示利用

26 件・219 点

(2) 開館時間及び休館日

ア 開館時間

午前 9 時～午後 5 時

イ 休館日

日曜日

土曜日

休日

12 月 29 日～1 月 3 日

8 月 6 日

(3) 平成 26 年度利用状況

区 分	利用者数	利用件数	複写枚数
市民利用	一 般	550 人	2,295 件
	法人等	364 人	1,521 件
	学 生	168 人	901 件
	小 計	1,082 人	4,717 件
職員利用		607 人	1,319 件
合 計		1,689 人	6,036 件

《平成 26 年度分野別利用内訳》

(単位：件)

区 分	市 民	職 員
総 合 計 画	1 5	2 0
文 化	1, 2 2 2	2 7 5
交 通	4	0
都 市 計 画	1 9 7	2 0 1
商 工	4 2	0
管 理	4 9	1 5 4
原爆・国際平和	1 6 8	4 5 5
教 育	6 6	1 4
財 政	1 7	4 3
コミュニティ	1 8	6
衛 生	1, 9 5 3	8
議 会・選 挙	2	6
道 路	4	2 8
福 祉	3	7 5
河 川	1	2
住 宅	0	1
農 林	2	0
水 産	0	0
環 境	1 2	4
下 水 道	2	0
体 育	1 3	2
住 民 事 務	0	0
防 災	9	1 5
消 費 生 活	0	0
観 光	8	0
建 築	2	1 0
清 掃	0	0
水 道	4	0
病 院	9 0 4	0
社 会 保 険	0	0
合 計	4, 7 1 7	1, 3 1 9

(4) 閲覧室入館者数（開館日数 2 4 3 日）

5,578 人

2 公文書（職員による保存文書の閲覧・貸出）

完結後各課で1年間保管された保存期間3年以上の保存文書は、公文書館又は区の区政調整課へ引き継ぎ、必要に応じて職員利用（閲覧、複写、貸出）に供している。

3 広島市刊行物の販売

昭和62年度から本市の有償刊行物等の販売を開始している（平成元年度からは、区役所区政調整課〈中区を除く〉でも販売）。

平成26年度中に公文書館で取扱った刊行物（公文書館発行の刊行物で区役所区政調整課等で取扱ったものを含む）は、93種類で、1,732冊の売上げがあった。

Ⅲ 情報公開制度・個人情報保護制度

1 情報公開制度

本市では、市民の市政参加を助長し、市政に対する市民の理解と信頼を深め、もって地方自治の本旨に即した市政を推進することを目的として、昭和 61 年 6 月 1 日から公文書公開制度を運用してきた。平成 13 年 4 月 1 日から公文書公開制度を情報公開制度に改め、対象公文書の拡大などを行い、さらに平成 19 年 9 月 28 日からは、何人も開示請求をすることができることとし、より一層の情報公開を進めている。

公文書館は制度運用に係る事務の指導・助言及び総合窓口として情報公開に関する事務を所掌している。

《平成 26 年度運用状況等》

(1) 運用状況

		(単位：件)
請 求		2, 2 8 3
処 理	開 示	1, 1 9 3
	部 分 開 示	1, 4 7 9
	不 開 示	2 2
	取 下 げ	5 7
	文書不存在等	1 7 0

※ 1 件の請求について複数の決定を行ったものを含む。

(2) 実施機関別請求件数内訳

		(単位：件)
請 求		2, 2 8 3
内 訳	市長事務部局	2, 0 4 2
	教育委員会	2 5
	選挙管理委員会	1
	人事委員会	1
	監査委員	5
	農業委員会	1
	固定資産評価審査委員会	1
	水道事業管理者	1 9 7
	病院事業管理者	1
	市議会	1 1
	広島市立大学	1

※ 1 件の請求が複数の実施機関に亘るものを含む。

(3) 請求件数は 2,283 件であり、窓口別の請求件数では全体の約 97% が公文書館であった。

2 個人情報保護制度

本市が保有する個人情報の適正な取扱いを定め、開示等を請求する権利を保障することにより個人の権利利益を保護するとともに、公正で信頼される市政の運営に資することを目的として平成 8 年 10 月に個人情報保護条例を施行し、個人情報保護制度を運用してきた。

平成 16 年 4 月からは、条例を全部改正し、請求の対象となる個人情報の拡大や利用停止請求権の創設など、より制度の充実を図っている。

公文書館は、制度運用に係る事務の指導・助言及び総合窓口として個人情報保護に関する事務を所掌している。

《平成 26 年度運用状況等》

(1) 運用状況

		(単位：件)
請 求		1 8 7
処 理	開 示	1 4 6
	部 分 開 示	5 8
	不 開 示	2
	取 下 げ	1
	文書不存在等	4 2

※ 1 件の請求について複数の決定を行ったものを含む

3 情報公開・個人情報保護審査会

広島市情報公開条例及び広島市個人情報保護条例に基づき、実施機関の諮問に応じて、開示決定等に係る異議申立て等について審議するため、広島市情報公開・個人情報保護審査会を設けている。審査会は委員10人以内をもって組織し、任期は2年で現委員は平成28年3月31日までの任期となっている。

《情報公開・個人情報保護審査会委員名簿》

(平成27年4月1日現在 50音順)

氏 名	役 職 名
浅利 陽子	弁護士
大久保 隆志	広島大学大学院法務研究科長 (専攻 刑事訴訟法)
大久保 憲章	広島修道大学法科大学院教授 (専攻 民法)
大橋 弘美	弁護士
片木 晴彦	広島大学大学院法務研究科教授 (専攻 商法)
川本 季子	広島消費者協会副会長
小出 和昌	広島テレビ放送取締役報道制作 局長
佐田尾 信作	中国新聞社論説主幹
ジョージ・R・ハラダ	広島経済大学経済学部教授 (専攻 憲法)
横山 信二	広島大学大学院社会科学研究科 教授 (専攻 行政法)

IV 保存文書の引継ぎ・保存・廃棄

完結後各課で1年間保管された3年以上の保存文書は、文書引継書及び目次を付して、公文書館又は区の区政振興課が引き継いでいる。

1 保存文書の引継ぎ（公文書館分。以下2、3も同じ）

平成26年度は次のとおり保存文書の引継ぎを行った。

- (1) 引継期間：6月16日～3月31日
- (2) 引継課数：37課
- (3) 引継数量：置換ケース換算で888箱

永年保存文書	172箱
10年保存文書	71箱
5年保存文書	640箱
3年保存文書	5箱

2 保存文書の整理

引継ぎを受けた保存文書のうち永年・10年保存文書については、文書引継書及び目次の整理、文書のファイル（簿冊）化を行い、保存文書目録を作成している。

《保存文書目録作成状況》

（平成27年3月31日現在）

区分	文書件数	ファイル冊数
永年保存文書	302,005件	34,277冊
10年保存文書	10,363件	772冊
合計	312,368件	35,049冊

3 保存文書の廃棄

引継ぎを受けた保存文書のうち保存年限を超過した文書については、関係課と協議のうえ廃棄処分を行っている。この際、歴史的文化的資料として保存価値等を有すると認められるものは、歴史資料文書として引継ぎ保存している。

《平成26年度保存文書廃棄状況》

廃棄箱数 697箱

（3年・5年・10年保存期間満了文書）

4 マイクロフィルムによる保存

保存文書等は、原本により保存することを原則としているが、繰返し検索・閲覧に供するため原本を損傷する恐れのあるもの、保存スペースが限られているもの等については、マイクロフィルムにより保存することとしている。

《マイクロフィルムによる保存状況》

（平成27年3月31日現在）

- ・ 条例規則原議書、予算見積書、職員業務分担表、出勤簿 2,338,333コマ
- ・ 設備、営繕関係工事図面 574,926コマ
- ・ 市政ニュース 61,837コマ
- ・ 記者提供資料 66,445コマ
- ・ 官報、新聞 826,560コマ
- ・ 個人所蔵資料、貴重図書 222,672コマ

V 行政資料等の収集・管理

1 行政資料の登録・目録作成

市民への情報提供の充実と事務能率の向上を図るため、広島市行政資料管理規程を制定し、行政資料作成時の登録及び公文書館への送付を義務付けている。

(1) 登録の要領

印刷発注する本市行政資料

- ・契約担当課（財政局契約部、区の区政振興課等）及び委託調査報告書の委託先での印刷発注に先立ち「市政資料登録カード」を作成し、公文書館に提出して登録を行う。
- ・完成後の行政資料のうち公開可能なものは、公文書館へ3部、市立中央図書館及び議会事務局市政調査課へ各2部、部分公開のものは、公文書館及び市政調査課へ各2部、市立中央図書館へ1部、非公開のものは、公文書館及び市政調査課へ各2部送付する。

(2) 「行政資料目録」の作成

昭和60年度から「行政資料目録」を作成し、利用のための検索に供していたが、平成20年度からは、行政情報検索業務システムにより、サービスの向上及び業務の効率化を図っている。

平成26年度は904件を登録し、平成26年度末までに27,049件となった。

2 図書等の登録・目録作成

市民への情報提供の充実と事務能率の向上を図るため、他都市・県・国等の行政資料や一般図書（郷土資料等）についても行政資料と同様に登録し、昭和62年度から「図書目録」を作成して利用のための検索に供していたが、平成20年度からは、行政情報検索業務システムにより、サービスの向上及び業務の効率化を図っている。

平成26年度は、他都市等行政資料、一般図書類を134件登録し、平成26年度末までに25,724となった。

VI 歴史資料の収集・整理・保存

歴史資料の保存・利用及び市史の編さんを行う必要から、公文書館では、歴史的・文化的資料として保存価値を有する文書を歴史資料文書として収集・保存することとしている。

このため、市民・職員に歴史資料の収集協力を積極的に働きかけるとともに、広島市文書取扱規程でも、公文書館長が引継ぎを受けた文書であって「永年保存の文書で保存期間が30年を経過したもの」又は「保存年限を経過した文書」で、歴史的文化的資料として保存価値を有すると認められるものを歴史資料文書として保存する旨を定めるなど収集に努めている。

1 歴史資料の種類

公文書館で収集している歴史資料を大まかに分類すると次のとおりである。

① 歴史資料文書

- ・近世から合併時までの役場文書
- ・永年保存文書のうち、30年を経過し、歴史的文化的な価値のある文書
- ・市の廃棄文書のうち、歴史的文化的な価値のある文書

② 市刊行物その他行政資料

③ 広島の歴史に関する記録、図書、地図、絵はがき、写真、ポスター等

《歴史資料文書の判断基準》

歴史的文化的価値を有するか否かを再評価を行う際の判断基準はおおむね次のとおりである。

- ・各種制度の新設、変更及び廃止に関する文書
- ・政策又は企画に関する文書
- ・市政の執行に関する文書
- ・市政の評価に関する文書
- ・個人又は法人の権利保護に関する文書
- ・学術調査研究上価値がある文書

2 収蔵資料数（整理済みのもの）

平成27年3月31日現在

種類	点数
歴史資料文書（役場文書）	41,347
行政資料	27,049
図書資料	25,724
その他文書等資料	11,599
写真 ※寄託資料を含む	約 97,000

3 主要所蔵資料

(1) 市民からの寄贈によるもの

- ・永濱家文書 971件
… 幕末から明治にかけての広島藩、広島県の公文書ほか
- ・重家豊氏資料 4,582件
… 県内社会・労働運動関係資料
- ・山木茂氏資料 2,393件
… 社会・労働運動関係資料
- ・任都栗司氏資料 195件
… 原爆被爆者援護活動関係資料
- ・広島市復興青年運動資料 234件
… 原爆被爆後の復興期における青年運動関係資料
- ・都築正男氏資料 645件
… 原爆投下直後の被爆者治療及び原子爆弾症に関する調査研究資料
- ・新藤兼人氏資料 130件
… 自筆映画シナリオ、著書
- ・矢吹憲道氏資料 70件
… 昭和初期の社会事業、原爆被爆後の救援活動、広島児童文化会館の創設関係資料
- ・寺光忠氏資料 40件
… 「広島平和記念都市建設法」の制定過程関係資料
- ・藤本千万太氏資料 69件
… 「広島平和記念都市建設法」の制定過程関係資料
- ・大儀正夫氏資料 420件
… 主に土地・土木事業に関する旧安芸郡中山村役場文書
- ・中山地区社会福祉協議会資料 321件
… 主に明治前期の地租改正に関する旧安芸郡中山村役場文書
- ・草津南町総代資料 148件
… 大正期から昭和22年までの同町の町内会・青年会等関係資料
- ・坂本忠之氏資料 87件
… 明治末期から昭和23年までの矢賀町内会関係資料
- ・山田隆夫氏資料 87件
… 戦時中の防空関係資料、昭和初期から30年代にかけての広島市の広報・税・国民健康保険関係資料など

- ・谷口盛行氏資料 43 件
 - … 第1回国勢調査(大正9年)関係資料
- ・横山雅昭氏資料 113 件
 - … 江戸時代後期の沼田郡相田村に関する絵図及び但馬国出石郡伊豆村から相田村への病人の村継送り文書
- ・登 清氏資料 492 件
 - … 旧高宮郡岩上村の近世から明治初期にかけての文書など
- ・原田威夫氏資料 55 件
 - … 明治から昭和初期までの旧安佐郡安村村会関係資料、沼田高等小学校を運営していた学校組合関係資料など
- ・弓野正彦氏資料 7 件
 - … 原爆投下後に入市した陸軍軍医少佐弓野勲氏の主に医学面での原爆被害に関する記録類
- ・前田良孝氏資料 9 件
 - … 日中戦争関係写真(101 枚)、昭和初期の広島通信局発行の書状、文書など
- ・下前一郎氏資料 122 件
 - … 明治中期から昭和20年までの旧沼田郡祇園村の町政関係資料など
- ・斗樹正氏資料 216 件
 - … 戦中戦後の学校関係資料
- ・高野泉氏資料 5,085 件
 - … 戦後広島の演劇活動に関する資料
- ・輝本親孝氏資料 824 件
 - … 戦後広島の演劇活動に関する資料
- ・橋本秀夫氏資料 92 件
 - … 広島城、不動院の図面など、広島の歴史的建造物に関する資料

(2) その他歴史資料

- ① 戦前の広島市関係
 - ・行政ポスター、チラシ
 - ・市街地図
 - ・広島名所等の絵はがき
 - ・版画「広島名所」(明治27年)
 - ・福井芳郎画伯のスケッチ画
(「がんす横丁」の挿し絵ほか)
 - ・市街地撮影写真
- ② 戦後の広島市関係
 - ・戦後復興過程資料
 - ・政令指定都市移行時の公文書及び行政資料
 - ・市街地撮影写真
 - ・小倉豊文著「絶後の記録」各国語版

4 「役場文書目録」の作成

収集した合併町村の役場文書は、整理を終えたものから順次目録を作成し、利用に供している。

平成20年度末までに「役場文書目録」に掲載した役場文書は、41,347件となっている。

目録名	刊行年月	収録件数
戸坂村役場文書目録	S54.3	3,976 件
大林村役場文書目録	S55.3	3,964 件
狩小川村役場文書目録	S57.3	4,187 件
志屋・戸山・八木村外役場文書目録	S58.3	2,333 件
瀬野村役場文書目録	S59.3	4,391 件
日浦・船越村外役場文書目録	S60.3	1,969 件
温品・矢野・熊野跡村外役場文書目録	S61.3	6,453 件
五日市町外役場文書目録	S62.3	1,834 件
役場文書目録補遺編	H3.3	1,939 件
役場文書目録補遺編Ⅱ	H5.3	1,497 件
瀬野川町・熊野跡村役場文書目録	H10.3	1,197 件
安古市町・矢野町役場文書目録	H11.3	788 件
安芸町役場文書目録	H12.3	1,939 件
祇園町・船越町役場文書目録	H13.3	704 件
安佐町・可部町役場文書目録	H14.3	1,608 件
白木町役場文書目録	H15.3	617 件
高陽町役場文書目録	H16.3	263 件
砂谷・上水内・水内村外役場文書目録	H21.3	1,688 件
計		41,347 件

5 「歴史資料目録」の作成

市民からの寄贈及び主務課から引継いだ歴史資料は、整理を行い、順次目録を作成している。

(1) 冊子目録

目録名	収録件数
重家豊資料目録	4,582 件
山木茂資料目録	2,393 件
任都栗司資料目録	195 件
広島市復興青年運動資料目録	234 件
受贈資料目録Ⅰ	1,230 件
絵はがき目録	2,214 件
写真目録(広報課撮影分)	4,530 件
受贈資料目録Ⅱ	1,030 件
広島市域地形図原図目録	2,719 件
計	19,127 件

(2) 「公文書館紀要」掲載目録

※冊子目録に収録済みのものは除いている。

掲載号	目録名	収録件数
5 号	都築資料目録	645 件
5 号	新藤兼人資料目録	92 件
15 号	横山雅昭氏寄贈資料目録	113 件
15 号	谷口盛行氏寄贈資料目録	22 件
24 号	永濱家文書仮目録	971 件
24 号	橋本秀夫氏旧蔵資料目録	92 件
	計	1,935 件

6 マイクロフィルム

歴史資料のうち、原本の汚損・棄損のおそれのあるものや現物を入手できないものは、マイクロフィルムにより保存し、利用に供している。

《マイクロフィルムで管理している主な歴史資料》

- ・ 芸備日日新聞 (M27.9～T7.5) ※
- ・ 中国新聞 (M25.5～7、M25.10、T4.1～H15.10) ※
- ・ 朝日新聞広島版 (T4.10～H13.12) ※
- ・ 官報 (S21.1～H11.12)
- ・ 県報等広島県の公報 (M7～M44)

※一部欠号あり

VII 公文書館「紀要」の刊行

公文書館が所蔵している公文書等に係る調査・研究及びこれに関連した広島市史研究の成果を公表するため、昭和 53 年 3 月に創刊した。一時中断していたが平成 24 年度に再開し、平成 26 年度は第 27 号を刊行した。

第 27 号の内容

- ・石丸紀興（広島諸事・地域再生研究所）〈編〉、
錦織亮雄（新広島設計事務所）〈語り〉
「広島の戦後復興における建築活動―地域の建築家の設計活動を通して（後）」
- ・竹下加奈子（広島大学大学院教育学研究科博士課程後期）
「河合太郎軍楽長時代の呉海兵団軍楽隊における奏楽実態―新聞資料を中心に」
- ・大迫知佳子（日本学術振興会海外特別研究員）
「明治後期の広島における洋楽普及―「丁未音楽会」に見る西洋音楽へのまなざし」
- ・（広島市公文書館職員）
〈翻刻〉「丹下健三書簡綴」（広島市公文書館所蔵藤本千万太資料）
- ・中川利國（広島市公文書館長）
〈資料解説〉「丹下健三書簡綴」（藤本千万太資料）について―広島市公文書館資料との関係を中心として」

第 26 号の内容

- ・山形政昭（大阪芸術大学教授）
「日本メソヂスト広島中央教会堂建築図面について」
- ・瀬戸武彦（高知大学名誉教授）
「第一次大戦時の似島俘虜収容所」
- ・石丸紀興（広島諸事・地域再生研究所）〈編〉、
錦織亮雄（新広島設計事務所）〈語り〉
「広島の戦後復興における建築活動―地域の建築家の設計活動を通して（前）」
- ・三好史久（広島市職員）
〈研究ノート〉LP レコード「HIROSHIMA」―ヴィルヘルム・ケンプからの音楽の捧げもの

第 25 号の内容（平成 24 年度発行）

- ・石丸紀興（広島諸事・地域再生研究所）
「広島における 51C 型・DK タイプの導入・普及―公営住宅編」
- ・菊楽忍（広島平和記念資料館）
「ヤン・レツル再考―書簡集から建築活動をたどる」

- ・石田浩子（広島市立中央図書館）
「畑耕一文学資料展」を開催して
- ・中川利國訳（広島市公文書館長）
〈仮訳〉「不朽の島」 エリザ・ルーアマー・シドモア著
- ・中川利國（広島市公文書館長）
〈史料解説〉エリザ・シドモア「不朽の島」～米国女性紀行作家が観た明治中期の厳島～

VIII 市史の編さん

公文書館では、昭和 61 年 3 月の市史編さん室廃止に伴い、その業務を引き継ぎ、これまでに「図説広島市史」「戸坂村史」「中山村史」「井口村史」「図説戦後広島市史」「図説戦後広島市史」(再版)を刊行した。

1 市史編さん事業の概要

(1) 公文書館発足前の市史編さん

「広島市史」(全 6 巻) …大正 11~13 年刊行
「概観広島市史」 ……………昭和 30 年刊行
「新修広島市史」(全 7 巻) …昭和 33~37 年刊行

(2) 「広島新史」

- ・ 事業年度 昭和 50~60 年度
- ・ 総事業費 233,937 千円
- ・ 発行部数
全 13 巻 各 3,000 部(有償・無償各 1,500 部)
- ・ 内 容
昭和 50 年の被爆 30 周年記念事業として昭和 20 年 8 月以降の広島市の戦後史として、復興と平和記念都市建設という独自の性格に立つ本市の歩みを、歴史学、文化人類学、法社会学、経済学、行政学、財政学、地理学、社会学など多くの分野から概説。

(3) 「図説広島市史」

- ・ 事業年度 昭和 63 年度
- ・ 総事業費 40,493 千円
- ・ 発行部数
5,500 部(有償 2,360 部 無償 3,140 部)
- ・ 内 容
平成元年の市制施行 100 周年・築城 400 年の記念事業として「広島 naturally」「原始から広島築城まで」「城下町広島」「近代都市広島」「平和都市広島」をテーマに写真、絵、地図等の図像資料により広島の歴史を分かりやすく紹介し、さらに「広島 of あゆみ」「広島城の 400 年」をテーマとして広島の歴史を概説。

(4) 「戸坂村史」「中山村史」「井口村史」

- ・ 事業年度 昭和 61~平成 3 年度
- ・ 総事業費 49,663 千円
- ・ 発行部数
各 800 部(有償 300 部 無償 500 部)

・ 内 容

戦後合併した町村のうち、昭和 61 年時点で町村史が編さんされていなかった戸坂村、中山村、井口村について各種史料を基礎に各村の原始以来、合併までの歴史を中心に、その後の歩みを加え編さん。

(5) 「図説戦後広島市史 街と暮らしの 50 年」

- ・ 事業年度 平成 4~7 年度
- ・ 総事業費 105,427 千円(人件費を除く)
- ・ 発行部数
6,500 部(有償 3,500 部 無償 3,000 部)
- ・ 内 容
被爆 50 周年を記念し、被爆の実相に始まり、復興期、発展期を経て政令指定都市期に入った広島市勢及び市民生活の戦後 50 年の歩みを市民向けにわかりやすくとどる本編に、別冊として広島 of 音を 50 種類収録した CD を作成。

(6) 「図説戦後広島市史」再版

- ・ 事業年度 平成 12~13 年度
- ・ 総事業費 21,272 千円(人件費を除く)
- ・ 発行部数
書籍
5,000 部(有償 4,600 部 無償 400 部)
CD ブックレット
5,350 部(有償 4,600 部 無償 750 部)
- ・ 内 容
2000 年—2001 年記念事業として「図説戦後広島市史 街と暮らしの 50 年」を再版。
別冊の CD を、ヒロシマの被爆体験や核兵器廃絶、世界恒久平和実現への誓いなどをテーマとした曲を収録したものに變更。

(7) 合併町村史

《本市で編さんしたもの》

区 分	合併年月	刊行年月
戸坂村史	S30.4	H3.2
中山村史	S31.4	H3.2
井口村史	S31.11	H4.1
沼田町史	S46.4	S55.4
安佐町史	S46.5	S52.3
可部町史	S47.4	S51.9
佐東町史	S48.3	S55.3
高陽町史	S48.3	S54.3
瀬野川町史	S48.3	S55.3
白木町史	S48.10	S55.3
新修矢野町誌	S50.3	S55.3
船越町史	S50.3	S56.3

《合併町村で刊行されたもの》

区 分	合併年月	刊行年月
祇園町誌	S47.8	S45.12
安古市町誌	S48.3	S45.12
熊野跡村誌	S49.11	S49.10
安芸町誌	S49.11	S48.3～ S50.3
五日市町誌	S60.3	S49.3～ S58.5
湯来町誌	H17.4	S61.9～ H9.7

2 被爆 70 年史編さん事業

本市は平成 27 年（2015 年）に被爆 70 周年を迎えることから、これを契機に高齢化の著しい被爆者や復興関係者の証言を発掘し、こうした証言や関係する文書、写真等の貴重な資料を収集し、これらを後世へ伝承するため、被爆 70 周年記念事業として被爆 70 年史の編さんに着手している。刊行は 29 年度（2017 年度）を予定している。

- ・ 事業年度 平成 26～29 年度
- ・ 発行部数
5,000 部（有償 1,500 部 無償 3,500 部）
- ・ 内 容
明治以降の広島、とりわけ被爆前の広島と被爆後復興した広島の歩みを振り返ることで、戦前からの都市基盤や文化・習慣等の「継承」や「変遷」にも焦点をあてた市史とする。

IX 展 示

公文書館のPR、史資料収集への協力を市民・職員に呼び掛けるため毎年所蔵資料を中心に企画展を開催している。

1 平成 26 年度の実施状況

- ・「新着資料展」

平成 26 年 2 月 3 日～6 月 30 日

開催場所 公文書館

入場者数 1,882 人(平成 26 年度中)

- ・「被爆 10 年目の「ヒロシマ」の響き—アールトネンと朝比奈隆—

平成 26 年 7 月 7 日～9 月 26 日

開催場所 公文書館

入場者数 1,354 人

- ・「新着資料展」

平成 27 年 2 月 9 日～6 月 12 日

開催場所 公文書館

入場者数 715 人(平成 26 年度中)

2 過去 5 年間の特別展示の実施状況

- ・「都市の表情—レンズがとらえた昭和初期の広島松本若次写真展」(平成 22 年度)

開催場所 公文書館

入場者数 1,204 人

- ・「市民の夢 旧広島市民球場の誕生展」(平成 22 年度)

開催場所 郷土資料館

入場者数 822 人

- ・「広島とスポーツ—廃墟からの復興—」(平成 23 年度)

開催場所 中央図書館

入場者数 3,300 人

- ・「紀行作家シドモア写真展—明治時代の宮島がよみがえる」(平成 25 年度)

開催場所 宮島歴史民俗資料館

入場者数 2,134 人

X 平成 26 年度の主なできごと

- 26. 4. 1 被爆 70 年史編修研究会を公文書館内に設置
 - 1 非常勤職員として歴史資料専門員を 2 名採用
- 4. 新規採用職員研修「広島歴史」を講義
- 5. 30 広島県市町文書等保存活用連絡協議会（広文協）総会・役員会（広島県立文書館）
- 6. 1 「広島市公文書館紀要」第 27 号を発行
 - 9 全国公文書館長会議（札幌市・札幌市公文書館）（～10 日）
 - 20 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会第 1 回役員会（広島県立文書館 ～21 日）
- 7. 7 企画展「被爆 10 年目の『ヒロシマ』の響き –アールトネンと朝比奈隆」開催（～9 月 26 日）
 - 10 ひろしま国際協力事業研修生受入
- 8. 20 安佐南区・安佐北区で土砂災害発生。避難所運営業務等に職員が交替で従事（～12 月）
- 9. 1 国立公文書館アーカイブズ研修 I（～5 日 1 名派遣）
 - 26 広島県市町文書等保存活用連絡協議会（広文協）第 1 回研修会（広島県立文書館）
- 11. 6 中国・四国地区文書館等職員連絡会議（高松市・三豊市 ～7 日）
 - 13 第 40 回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国（福岡）大会及び研修会（福岡市ほか ～14 日）
 - 26 平成 26 年度行政文書・古文書保存管理講習会（広島県立文書館）
- 27. 1. 17 6 階フィルム保管室・6 階資料室空調設備更新工事開始（2 台 ～3 月 2 日）
 - 2. 5 広島県市町文書等保存活用連絡協議会（広文協）第 2 回研修会（広島県立文書館）
 - 9 企画展「新着資料展」開催（～6 月 12 日）
 - 20 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会第 2 回役員会（広島県立文書館）
 - 23 「広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラムインターンシップ」研修生受け入れ（～3 月 6 日）
- 3. 13 6 階資料室、フィルム保管室ドア改修（エアータイト仕様へ改修 ～18 日）
 - 16 第 12 回広島市公文書館運営委員会開催
 - 20 6 階資料室、フィルム保管室東西内壁断熱工事（～27 日）

分類登録番号	広D0-2015-471
名 称	広島市公文書館事業概要 平成26年度版
編修・発行	広島市公文書館 〒730-0051 広島市中区大手町四丁目1番1号 大手町平和ビル TEL (082) 243-2583 FAX (082) 542-8831
発行年月日	平成27年(2015年)11月1日